

## Kawasaki Medical Journal Vol. 27 : No. 3・4 の和文抄録

### 珪肺症症例末梢血単核球における survivin 遺伝子発現の減弱

大槻 剛己

(衛生学)

(pp. 75~81)

珪肺症に伴う免疫学的異常の発症機構を探索する目的で、症例の末梢血単核球における IAP (Inhibitor of Apoptosis) 群遺伝子の発現を検討した。XIAP ならびに Survivin 遺伝子の相対発現限度を multiplex RT-PCR 法にて評価した。また、これらの発現度と種々の臨床パラメーターとの相関を解析した。健常人と比較すると珪肺症症例では Survivin の相対的発現度が低下していた。また Survivin の相対的発現度は  $PCO_2$  値と正の相関を示した。これらの結果は、珪肺症症例における T 細胞の 2 つの亜分画の存在 (Fas 媒介アポトーシスに抵抗性を示す自己認識長期生存分画と珪酸誘導アポトーシスに感受性があり細胞死と再産生を繰り返している分画) を支持するものである。

### PCR 法による血液検体中のマラリア原虫の検出と同定

原野 恵子, Aung Myint Than\*, 末次 慶收\*, 川端 真人\*\*,  
原野 昭雄\*

(川崎医療福祉大学医療技術学部臨床栄養科, \*川崎医科大学生化学,

\*\*神戸大学大学院医学研究科国際交流研究センター)

(pp. 83~89)

この研究は、マラリア原虫、特に *Plasmodium falciparum* と *P.vivax* の *ssrRNA* を検出するスクリーニング法の確立であった。*Plasmodium falciparum* と *P.vivax* の双方を分別・検出するのに有効な nested マルチプライマーセットを用いる PCR 法を異常 Hb, Hb J-Tongariki あるいは Hb I-Toulouse を持つソロモン諸島やパプアニューギニア人の DNA に応用した。しかし、多種のマラリア原虫に感染した患者からそれぞれの原虫を確認するにはやや困難だったので、それぞれの原虫の検出には特異的に作用するプライマーを用いる PCR 法によって再確認する必要があった。